

中国社会学会社会福祉研究専門委員会
2024年「東アジアフォーラム」自由研究発表報告

同志社大学大学院
陳 凌雲

自由研究発表で得た研究の自信と成長

本研究の発表機会を提供して下さった、日本社会福祉学会国際交流委員会、中国社会学会社会福祉研究専門委員会、並びに「東アジアフォーラム」運営に携わった廈門大学の皆様に深く感謝を申し上げます。

2024年12月15日、中国・廈門大学にて開催された「東アジアフォーラム」での自由研究発表は、私の大学院研究生生活における貴重な経験となりました。

今回の発表テーマは「地域福祉実践における多様な主体が評価プロセスに参加する意義」でした。本発表は、中国江蘇省塩城市塩瀆街道W社区における「Green Living, Blooming Community」プログラムの評価活動事例を取り上げ、参与観察及びアンケート調査により、評価活動の中で多様な主体の参加が地域福祉実践の発展にどのような意義をもたらすのか、を明らかにすることを目的としました。

発表の考察として、①評価ワークショップは、参加者にとって評価の「場」であると同時に、地域課題解決に向けた合意形成を促進する「場」としての役割も担う可能性があります。②地域に根差した知識や経験は、評価ワークショップを通して共有財産として認識されるようになりました。③利害関係者の評価に対する要望が、評価ツールを通して反映され、プログラムの改善に有意義な評価情報を提供することになりました。

大会当日、私の発表は大会の基調講演セッションに組み込まれました。これは、私にとって初めて中国語で発表を行う機会であり、さらに基調講演という重要な場に割り当てられたため、大きな緊張を伴いました。しかし、大変嬉しかったのは、基調講演自体には質疑応答の時間が設けられていなかったにもかかわらず、その日の基調講演の司会とコメントを担当されたのが、私が長年尊敬しているプログラム評価の研究者である方巍先生だったことです。

方先生は私の発表に対してコメントをくださり、従来の鑑定型評価とは異なる、社会構成主義に基づく私の評価研究が、地域福祉プログラムの評価においてさらに開拓されるべき重要な分野であることを指摘してくださいました。このコメントは、私自身の研究に対する自信を大いに高めてくれるものでした。

今回の発表の機会をくださった日本社会福祉学会に、改めて深く感謝申し上げます。この貴重な経験を糧に、地域福祉プログラムにおける評価活動の意義をさらに深く探究していきたいと考えています。そして最後になりますが、さまざまなお手配、調整等にご尽力して下さった日本社会福祉学会事務局の皆様には心から御礼申し上げます。ありがとうございました。